

# 正しい知識と情報を

3月11日、偶然にも「人権を確かめあう日」と同じこの日は、日本にとって決して忘れ難い日となりました。言うまでもなく2年前の2011（平成23）年3月11日、東日本大震災が発生したからです。

この日以来、被災された方や原発事故により避難を余儀なくされた方の多くが住み慣れたふるさとを離れ不自由な生活を送っておられます。

特に原発事故のあった福島県から避難された方々はホテルで宿泊を拒否されたり、ガソリンの給油を拒否されたり、小学生が避難先の小学校でいじめられるなどの事例も報道されています。

これはいわゆる“風評被害”で、根拠のない思い込みや偏見によるものであり、人権侵害にほかなりません。

残念ながら私たち人間には「理解できないもの」、「異なるもの」を排除しようとする意識が働くことがあるといわれています。東日本大震災も原子力発電所事故も「遠いところ」の出来事ではなく、私たちの生活のあり方を問うものでもあり、被害を受けた地域だけの問題ではないはずです。

放射能汚染の被害を受け、生活の場を奪われたすべての人たちと思いを共有し、被害者が偏見や差別を受けないように被ばくに関する科学的、客観的な事実をしっかりと理解し、冷静に受け止め行動することが大切ではないでしょうか。



私たちも知らず知らずのうちに加害者になってしまうかもしれません。

うわさや憶測をうのみにせず、正しい知識や情報を得るよう日ごろから心がけたいものです。

たとえ遠くからであっても、被災された人々を温かく支え、共感と優しさにあふれた社会を築くこと。それが今、私たちに求められています。

自由と平等を尊重し、偏見や固定観念にとらわれない、人が人らしく生きていくことのできる社会こそが、復興に向けてまた、未来への希望をつないでいくのではないのでしょうか？